

東海医療科学専門学校 学校自己点検・評価表

評価対象期間・：令和7年4月1日～令和8年3月31日

実施日：令和8年6月12日

1. 令和8年度 学校目標

「日本一の専門学校を目指す」

- (1) 学園ポリシーを反映させた教育実践の推進
- (2) コーチング研修の活用などによる学生に寄り添う力の向上
- (3) 教職員間のコミュニケーションの促進

2. 令和8年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1) 学園ブランドの伸展
- (2) 建学の理念に基づいた教育の実践
- (3) 国家試験合格率愛知県1位
- (4) 学生募集対策
- (5) 教職員間のコミュニケーションの促進
- (6) ICT活用の推進
- (7) 5S活動の推進
- (8) 令和7年度学科独自の課題解決の取組み状況を発展させ、令和8年度学科独自の課題解決計画を立てる。

3. 令和7年度の評価項目の達成及び取組状況

1 教育理念・目標		適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1
1-1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
1-2	学生・保証人に対して教育理念等を明文化し、周知しているか	3
1-3	教職員に対して教育理念等を明文化し、周知徹底を図っているか	4
1-4	学外の方に対して教育理念等を明文化し、公表しているか	4
1-5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

1-6	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか（学校の将来構想を描くために、業界の動向やニーズを調査しているか）	4
1-7	学校における職業教育の特色は明確になっているか	4

① 課題

- ・本学園の教育理念等を学内外に浸透させるために、令和6年度に刷新した学園の3つのポリシーに基づき、令和7年度末までに学科教員全員の参画により、各学科のディプロマポリシー、カリキュラムマップ、カリキュラムツリーを策定した。この活動を通して、教職員への理念の周知は改めて進めることができたが、学生、学外への浸透は十分とは言えない。

② 今後の改善方策

- ・これまで学園のHPには、教育理念、使命、ポリシーのみを掲載していたが、カリキュラムマップ、カリキュラムポリシーを掲載することにより、学生及び学外への教育理念等の周知の一助にする。また、毎年のシラバスの見直しを確実に行うことにより、教育理念・使命・ポリシーと授業をはじめとする諸活動とを有機的に結びつける意識を教職員の中に醸成する。それにより、学生及び学外への周知を更に進めたい。

③ 特記事項

- ・クレド活動の継続により、教職員と学生が行動ベースで教育理念、使命、ディプロマポリシーの体現を図る。

2 学校運営		適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1
2-1	教育方針や教育目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
2-2	運営方針を教職員に周知しているか、また必要に応じてその理解の状況を確認しているか	4
2-3	寄附行為、理事会会議規則等（法人）、学校の運営規程等が整備され、それらに従って理事会・評議員会（法人）が開催されているか	3
2-4	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
2-5	運営会議（学科長会・教学事務連絡会等）が定期的に行われているか	4
2-6	専攻分野に係る関連分野の企業・団体等と連携し、実務に関する研修や指導力の修得・向上のための研修等を受講させているか	4
2-7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	4
2-8	人事、給与に関する制度を整備しているか	4

① 課題

私立学校法の改正に伴い、令和7年4月1日に施行した新たな寄附行為に基づき、理事会及び評議員会を運営した。新寄附行為による運営を1年間実施した結果、法人運営は概ね円滑に行われたものの、今後の役員改選を見据えると、理事及び評議員の選任手続きに関する規程や法人運営に関するマニュアル等の整備が十分ではないことが課題として明らかとなった。

② 今後の改善方策

新寄附行為に基づく運営実績を踏まえ、理事及び評議員の選任規程の整備を進めるとともに、役員改選時の手続きや法人運営の実務を標準化するための運営マニュアルを作成する。また、理事会・評議員会の運営状況を定期的に検証し、法令及び寄附行為に適合したガバナンス体制の強化を図る。

③ 特記事項

特になし

3 教育活動		適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1
3-1	教育目的および育成人材像に基づき教育課程の編成・実施方針(カリキュラムポリシー)を明示し、また学校構成員(教職員および学生等)に周知し、社会に公表されているか。	4
3-2	教育目的および育成人材像に基づきディプロマポリシーを明示し、また学校構成員(教職員および学生等)に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか	4
3-3	講義および実習に関するシラバスは作成されているか	4
3-4	各科目の一コマの授業について、その授業シラバスが作成されているか	4
3-5	シラバスあるいは講義要項(作成されていればコマシラバス)などが事前に学生に示され(あるいはホームページなどで公開されて)、授業で有効活用されているか	4
3-6	質保証を目的とした授業や学習の定期的な観察を実施しているか	4
3-7	学生によるアンケート等で、適切に授業評価を実施しているか(学習の目的を満たしているか、満足度を含めて定期的に確認しているか)	3
3-8	評価結果を教員にフィードバックするなど、その結果を授業改善に役立てているか	3
3-9	カリキュラム作成メンバーの中に業界関係者などの外部関係者を入れているかまたはその意見を取り入れているか	4
3-10	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
3-11	学生や保証人(保護者)に対し、成績評価・単位認定の基準、進級要件、卒業要件はきちんと提示されているか	4
3-12	各規定に基づいて適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っているか	4

3-13	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか（発行する修了証明書の種類及び内容）	4
3-14	キャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促しているか	4

① 課題

授業評価アンケートについては、入力システムをデジタル化し、実施しやすく回答数を増やすための工夫をここ数年間行っているが、まだ全学科で使いこなすに至らず、学科、科目によっては十分な回答数を得られないケースがみられる。また、結果のフィードバックについてもまだ課題としている部分である。

② 今後の改善方策

入力システムは改善され、簡単に行えるようになってきているため、教員が方法を熟知し、実施する場所、タイミング、声掛けの方法を適切に行うことで求める回答数を得ることは可能だと思われる。フィードバックについては学内の教員、非常勤講師ともに適切なタイミングと方法を検討中である。

③ 特記事項

科目ごとに QR コードを作成し foams を使用してスマホから入力可能なシステムになっている。

4 学修成果・教育成果		適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1
4-1	学生の学修成果の評価に際して、育成する人材像に沿った評価項目を定め、明確な基準で実施されているか	4
4-2	対外部に向けた就職実績を公表しているか（パンフレット・HP等）	4
4-3	資格取得率の向上が図られているか（目標とする資格試験等への合格率は全国平均と比較してどうか）	4
4-4	国家試験結果に関して検証・報告がされたか	4
4-5	国家試験結果（合格者数・合格率）を公表しているか	4
4-6	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか（卒業生の就職後の動向を出来るだけ把握し、卒業後にも就職その他の支援を行っているか）	2

① 課題

・**情報収集手段の限定化**：卒業後の連絡手段や関係維持が、同窓会という特定のイベント（点での接点）に依存しており、継続的（線）な状況把握ができていない。

・**客観的評価の不足**：卒業生本人からの自己申告による情報が主であり、就職先（医療機関や企業等）からの客観的な評価やフィードバックを組織的に得る仕組みが構築されていない。

・回答の動機付け：卒業生に対して動向調査を行う際、卒業生側にとって回答するメリットや学校と繋がり続ける明確な理由が不足している。

② 今後の改善方策

卒業生への情報提供（メリット）を通じた関係強化

単なる状況確認の連絡だけでなく、卒業生にとって有益な情報（最新の医療機器に関する勉強会のお知らせ、新しい資格に関する案内、キャリア相談窓口の案内など）を定期的に発信する。

③ 特記事項

特になし

5 学生支援		適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1
5-1	学生への修学支援を適切に行っているか	4
5-2	進路・就職に関する支援体制は整備されているか（またそれはきちんと学生や保証人（保護者）に周知されているか）	4
5-3	学生相談に関する体制は整備されているか（相談窓口が設置されているか）	4
5-4	学生の面談・相談記録があるか	4
5-5	奨学金制度など、学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
5-6	学生の健康管理を担う組織体制はあるか（学生の健康診断を実施しているか、また健康相談窓口は整備されているか）	4
5-7	退学率の低減が図られているか（出欠状況及び学習者の減少に関する分析が行われているか）	4
5-8	退学率の低減に関する目標・計画が教職員に共有されているか	4
5-9	退学者数を公表しているか	4
5-10	保証人（保護者）と適切に連携しているか（保証人のニーズを把握しているか）	4
5-11	保証人（保護者）との計画的な相談会・面談を行っているか	4
5-12	卒業生への支援体制を整備しているか（再就職、キャリアアップ等について、相談に乗っているか）	3
5-13	卒業生への卒後教育等の支援体制はあるか（卒業生への講習・研修を行っているか）	3

① 課題

卒業生への支援体制については、学科ごとにばらつきがあることが毎年の課題であったが、同窓会を組織している学科については、回数に差はあるものの卒後教育や交流を目的とした取り組みを行うようになってきている。

今後の改善方策

今後は学園全体の同窓会（施友会）の取り組みも活発に行っていくことや、学科同窓会との連携等も検討していきたい。

② 特記事項

特になし

6 教育環境		適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1
6-1	学生が利用できる参考図書・関連図書は備えられているか	4
6-2	教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか	4
6-3	学内外の実習施設、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
6-4	防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	3
6-5	防災・防犯設備（非常灯・消火器・警備システム等）が整備・点検されているか	4
6-6	定期的に防災訓練を実施しているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

- ・防災備蓄品、防災備品の増量を検討

③ 特記事項

・昨年度の改善項目となっていた危機管理マニュアルの施行、ならびに学生の防災訓練について実施された。

- ・防災のヘルメットは令和8年度予算にて一部増量した。

7 学生の受入れ募集		適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1
7-1	学校案内に、育成人材像、特徴、目指す資格・免許等をわかりやすく紹介しているか	3
7-2	学校説明会等による情報提供（育成人材像、目指す資格、学費・教材費等の情報）を行っているか	4

7-3	入学予定者に対し学習指導・支援等が行われているか	3
7-4	学校案内等には選抜方法が明示されているか（入学に必要な学力、スキル、資格、職業経験などの、前提となる要件が明示されているか）	4
7-5	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を行っているか	4
7-6	学納金は妥当なものとなっているか	4
7-7	学校案内等に、学費、受験料、学習教材の購入費等が明示されているか	4

① 課題

募集環境が厳しさを増す中、自校の魅力の訴求力向上と、入学予定者への学習支援体制の強化が課題となっている。本評価表において、7-1 及び 7-3 が 3 点（ほぼ適切）に留まっている。多様化する志願者のニーズに合わせた情報発信と、入学後の基礎学力不足や中退防止を見据えた入学前からの教育サポートの拡充が求められている。

② 今後の改善方策

出張授業などにより小中高生向けに職業認知度向上や学校魅力を伝えるため、出張授業などでの接触の機会を増やす。また、営業部と教学マネジメント部が連携し、入学予定者への基礎学力支援や個別フォローを充実させ、円滑な入学と定着を図る。

③ 特記事項

学園全体で高い国家試験合格率（91.7%）と卒業・進級率（95.7%）を維持している。教学マネジメント部を中心に学園全体で教育力をさらに強化し、ブランド力の向上と入学者確保に努めている。

8 教育の内部質保証システム		適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1
8-1	養成施設指定規則等の遵守と適正な運営がなされているか	3
8-2	関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程を整備し適切に運用しているか	4
8-3	ハラスメントの防止について規定を文書化し、対策を立て実行しているか	4
8-4	学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	4
8-5	個人情報保護規程が文書化されているか	4
8-6	自己点検・評価の結果に基づき改善計画を策定したか	4
8-7	学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施し、改善の取組みを行っているか	4
8-8	自己評価、学校関係者評価結果及び教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4

① 課題

入学辞退者の発生を見込み、入学定員 40 名に対して 41 名を合格と判定したが、結果として入学辞退者が発生せず、一部学科において入学定員を 1 名超過した。募集環境の変化により、入学辞退者数の予測精度向上が課題となっている。

② 今後の改善方策

過去の入試結果や受験生動向を多角的に分析し、辞退率予測の精度向上を図る。特に、過去 3～5 年間で最も辞退者数が少なかった年度の実績を基準として活用し、定員超過リスクを抑制するとともに、欠員防止との両立を図りながら、適正な学生確保に努める。

③ 特記事項

ハラスメントの防止のため、教職員相談員を配置するとともに、相談窓口を設置している。これらについては、学園ホームページ及び学生に配布しているスチューデントマニュアルに掲載し、周知している。

また、ハラスメント対策委員会を定期的を開催し、相談の受付状況を確認するとともに、ハラスメント防止に関する事項について検討している。

9 財務		適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1
9-1	教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか	3
9-2	年度予算・中期計画が策定されているか	3
9-3	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
9-4	予算及び計画に基づき適正に執行管理を行っているか	4
9-5	私立学校法及び寄付行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか	4
9-6	財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか	4
9-7	財務情報の公開について、ホームページに公開するなど積極的に取り組んでいるか	4

① 課題

セムイ学園の安定的な運営を財務面から支えるため、予算管理の精度向上及び経費削減の仕組み化を推進し、財政基盤の強化を図る。

② 今後の改善方策

予算管理の精度向上及び経営判断を支える情報体制の強化を図るとともに、学科ごとの経費データを分析し、予算と支出の偏りを可視化して最適化を図るなど経費削減に向けた仕組みを構築する。

③ 特記事項

令和 7 年度においては、関係部署との意見交換を重ねながら、実行可能な削減策を検討し段階的に実施し

た。これにより相当額の支出削減を達成することができた。

10 社会貢献・地域貢献		適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1
10-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
10-2	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4
10-3	学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	4

① 課題

各学科が専門性を活かして施設提供や公開講座、ボランティア参加を実施していますが、学科ごとの単独活動に留まり、多職種連携による学校全体での横断的な取り組みが不足している点が課題です。また、単発のイベント協力や外部要請に応じた活動が多く、地域課題の解決に向けた継続的なアプローチや、学生が主体となって社会貢献活動を企画・実践できる仕組みづくりも今後の課題として挙げられます。

② 今後の改善方策

現在各科が単独で実施している「セムイサロン」等の活動を統合し、複数学科の学生がチームを組んで企画・運営する「多職種協働型の社会貢献プログラム」へと発展させられると良い。

③ 特記事項

特になし